YSE QUARTERLY MAGAZINE [74xx74]

VOI. 15 | 2019年春号 | springissue 2019



「百丹沢」撮影:学院長

界 最 成 す 産

をの 員 に 業 界 行 豊 企 ۲ 法 1 業 人神 って 業 申 協 か 9 の ビ の 社 ス な 8 \cup 会 L١ 生 発 会 産 ま 奈 8 神 活 展 的 年 す 業 を支 と経 に設 地 位 の 情 県 健 情 神 ち ·情 協 援 営 立 向 全 報 は 会 す 者 上 な サ る ħ を 発 は 長 活 社 目 展 情 ビ の 員 的 لے 報 常 ス社 会 ₹ が な め 企 体むり

り む協会として活動して 働き方改革に積極的に 内 で 最 も 女 性 お 取 活

学院長

コラム

新 た に

嘱望され

る

(一社)神奈川県情報サービス産業協会

勝彦

会長 常山

ことに 業 が \subset 神奈川 ま す。 より 県 県 更 内 に 内 に 多 Ι 集 Т < 積 の 産 業 U Ι り T 全 組

の中学生・高校生のたIT業界が、 うに た い職 い 数 方 改 革 年前 なりまし プログラマ」 ۲ 今では最も い (ま わ ٣ 取り で 労 た。 ¬ I が た す 人 女 性 生が将来 組 Ι と 答 え Tエンジニ 気 最 5 む Т -載 ら 業種 活躍 近 業 界 業 は 界 な る な 多 ۲ に で りくか し変 働 す

テ 技 界 術 Δ 現 グの が 要素を組み合わ クラウド 在 垣 普 は 根 及 Ι を 越 浸透 バ 0 T ۲ ル 様 え Q Α Ą な 玉 多 た 境 < 新 れをを 産 ス い 5

> 我 身 トい \subset Q 近 い に るので 子 T業界の わ マ n る 技術 シ 、 ス 等 者 テ の が Ž Δ 作 も れ 全 か ボ 支 7 5

方法 客様に 合わ 時 たシステム ょ 業 て動作 うにプロ 界 人 達 の 技術 嬉し せるこ を理解 で 利用 の最大の喜びです。 す の進 が \cup は我 ーが 世 歩と 2 Ĺ ま とによりシステ グラムを n す 基 ー の 中 変化 Q 正 本 Ì T 苦 お は \cup 役 に 労 し Č 作 < 技 が 多く 産 Ŋ 動 術 業 立 \subset 作 の 7 作ム व Č の 組 利 働たお つ とみ る 用 T

が 引 所 5 を たくさ 情 す 属 0 中 Ų る 元 心 に を の 会員 日 λ 気 超 大手 加 え る I で 本 盟し 企業は の I 力 か ています。 Т Т あ 5 業界 ふ 神 中 連 れ 奈 企 る を け の県 業

> で 活 を 秘 長すること る 産 めた学生 躍 業 \cup C す を期待 \Box Q の 若 皆 楽 < \cup 様 \cup 無 T が限 7 い な Ι の ます。 が Т 可 5 業 能 界 性 成

筆者略歷

1957年12月 新潟県上越市生まれ

1981年3月 関東学院大学工学部卒 1981年4月

株式会社ジャパン・サービス入社 株式会社ソフテム設立、代表取締役社長就任

一般社団法人神奈川県情報サービス産業協会会長就任 2015年3月 PT.Softem Mitra Indonesia(SIM)設立、コミッショナー就任

が 3

も ン 行 隔 」 で 操 ル で軽 ド さ の が に 0 ま 進 1 象 加 化 世 Ι ざ 扱 to きる 作 徴 Т __ 速 に 土 [^]えるよ : や 自 され ま 管 木測量、 際注目 次 技術分野を見ると、 ンの \cup で 世代 な 理、 無 $\overline{}$ 人 日動制御に る第4 性 分 い わ 航空 野で うに ー 能 が され 通信 災害 ます を 見 ビッグデ \subset 薬 ... 規 格 次産 なっ 機 向 $\overline{\zeta}$ $\overline{}$ 散 ラ ょ も 用 上 い \neg 無 たこと が 人 で 業革 布 って 大き ます ド \cup _ 5 40 パ タ ,, n 手 命 ネ 空 G 飛 遠 I 先

こ

時

代

の

流

に

ブ

丰

発 展

 $\overline{}$ う

る先進

Ι

技 術 識

の

ょ

なスピ

· で 進 歩

で

に

新

い

知

ゃ

業 り

技 分

勝巳

に 未 い な い ド だ ま ど ま 全 る の か では < らで 手 新 す なしいい す。 ンを飛 こ か かと ビジ ず n 用 の は $\stackrel{\text{\tiny }}{=}$ いネス れよ ば 軽 例 す 量 い 期 こ うと 物 上 C に 待 繋 ۲ 空 す の が が 領 U し て 配 が が あ る 域

億円に _____ に 2 _は には さ れ 4 2 ビジネス市場規模は 2 告 すると見込まれ 0 インプレス総 前 ablaド 0 % 1 2 い 増 ま の 1 拡 年 7 年の国 大 比 3 1 す ンビ 年 7 5 \cup |C 度 1 0 7 2 0 2 一 内 の こジネス調 % 増 合研 の 3 $\overline{}$ 億 約 1 よると、 い 究所 7 1 8 ۲ 2 の 円 ます。 . 倍) 前 年 4 8 ٢ 億 年 推 查 発 年 6 に 度 0 度 定 比 ン 表 円 報

> ジニア つで プリ る ۲ 的 を身に ド 像 な ケー の 不足 編 が ンアプリ) ン ンエンジ が 続 シ ョ 集 の つ . 操 け ンソ 解 析 縦 い られ た 職 \subset います。 ニア 空 撮 の フ 40 ま 業実践的 す 開 ド \vdash 発に携 も が 。 以 から空撮 そ 下 ンア 慢 I の わ 性ン

スト は 発 奈 ₹ に 教 か リ 寄 企 Ш ゃ な 育 け そこで、 業で 県下 実績 さま もの Ą な ゃ に ド () られる期待 取 ざま 最 を が り た の 本校で あります。 も 独 活 組 め ίζ 成長 立系 んで か な ンアプ \cup は、 は、 職業 発 展 ボ Ι い IJ Т 2 ツ る ソラに 飛行 \vdash 実 の 非 専 コン 門践 開 常 今 \vdash 発 船 に 学 的 で開神テ経 ア 大校なを

ア ま n 1 \subset ネ ン 事業 る 東 に 様 証 の も 意 部 欲 力 上 的 の 場 に

ボ 発 ッし、 Ĺ とに、 エンジニア 産 既に 学 1// • に 連 Ι 成 3 3 2 力 の 0 T 携 ま 育 に 成に取 ソフト 年 リ \cup ょ た。 + 度 Ŋ 生 ュラ ょ り 科 ド 組 に り Δ お λ を でンい口開



5G(5th Generation)とは:移動通信の通信トラフィック量が、2010年と比較して100倍以上に増大すると期待されており、IoTの 普及等が進んでも多数の端末との接続が円滑に行えるようになる次世代超高速データ通信システム。

IoT (Internet of Things)とは:パソコンやサーバといったコンピュータ以外の多種多様な「モノ」がインターネットを通じて繋がること。

れではその不安をどう

で

期

な生りさ季 活い活学ん節 でが年はは 々いし大が新冬 き変しか くんうくわいら つ 学 春

しら

よ小

う。

さく

で

きる

か

考

え

 $\overline{}$

2

、っ

た不決装しい

めておくことで漠然に直の二重化などの対応 それぞれのケースでったケースを「見える

の 二 重 化 れ ぞ れ ス

ぎケ の | 見

対 ス え 応 ご る

策 と 化

安め置

<

 \subset

い

٢ ₹

したをに

まし

者

しものはのた皆 $\overline{}$ いて ることと思

つ 生

わろ

に

ょ

日

いまのすなろそん何れでえ生 Ù うのながか ° (1 つ て 活 かといかといかという が おきるか おきるか ょい うる期 تا の ん見 こか、 つんこつ か ~ ŧ どえんな —番 大き い も の を て自

よい うか る人 人待の ۲ そいる分の不多とに が のてんか新安いもは () の Č い見のか、境はなもし なし分まえだ、どにこい抱い

わなか変 る。 であれたりと が。これたりと が。これたりと い تع 望 かの自学り きをらで分し ししとのスたて大ピ前たつか製テ納ききュは しあし事なかつすな「 た 前いしも 。いいこ た。 ユ は 私 る 品 つの ぶ ム期 まな はサ لح ₹

 $\overline{}$ は定する、何が起ころの漠然・ 何が起こるか う ッバす な うことに の っることが トが 不 ワ ダ | ウ 安 で ウ す の ン ケはで ク 内 分正 尽 す で 分 す 容 る きスか 。にき か 体 まはらしいまらは

約 は こ さい出がにしシタ4 れつ荷止間たスメ そもがまに テー年 う大止っ合おムカ間校 にき またう客開 Ċ なな つらか様発で 日 $\overline{}$ っ不 I とをい本員 し場こ 約 担く のに て安 いに まかの束当つコな ま押うらシししかンる

限に手さネ

れジこ

るメの

リンよ

ストう

クとな

しまを

てすリ

゜ス

でにい対

あになな測マ

らもを

コ打

コンピこ

ュと

り

ま

す ず

企

だ見家増で境 がて点 けを族幅 すに皆 引 そ か لے さが向さ の 当 5 Ą 代 金 予 さ 考 会 、か 6 表を測会業例計会 くに話 るむっ も こやて Z しし で 上れ上計 $\overline{}$ $\overline{}$ ۲ み進れ するののタす対い応 不 そ なにんか る損安世シ そ安の く不でら こ失全界スこ のを経 安い新 とに性でテれ適 分で験友だくし な対のもムは切予ク 希きや人けわい 望る意やをけ環 どし観



生活を対 送り 膨らま ま しょ せて充実 う。 \cup た

公認情報 本校教師 中報 [‡]システ 村 照 ム監査 栄

ロボットコンテスト 実績を活かす



perの アートロボット の発展を見直し 大の発展を見直し 大の発展を見直し 大の産学連集 のアプリケ を 技 始 会 トは を コーンエンジニア、コンジニアをはじめ、 12 Ι **|** | U 開 重 5 取 込 I o T エンジニアなど た。 発 L E G で 出 み 0 校 4 ね 8 5 てきま によるコン は、 にの 比アロ 産学連携に 数 重 0 Q 全 た エンジニア、ス 勝を を マ 0 玉 携タルをし、へ C L 移ケ え 1 成 参どの 機 テ P 7 ン て シ e よ ル を | へ 会 、ボ ス ド 当 経 5 ト 1 育 き ョ p り コ 担 ビ ー に 5 ッ ト ス 時 験 回 競 年 成 ・テ 、ニマドム

ロボットコンテスト出場 記録		
平成21年6月13日	近藤科学㈱第3回自律ビーチフラッグ競技会 学生部門	準優勝
平成21年12月23日	第18回全国専門学校ロボット競技会	優秀ヒューマノイド賞
平成22年6月5日	近藤科学㈱第5回自律ビーチフラッグ競技会	
	学生部門	優勝
	エキスパート部門 VS 学生部門	優勝
平成22年6月6日	近藤科学㈱KONDOCUP	優勝
平成22年10月28日	ESSロボットチャレンジ2010 自動航行飛行船コンテスト	モデリング 奨 励 賞
平成22年12月23日	第19回全国専門学校ロボット競技会	団体優勝
平成23年9月10日	ESSロボットチャレンジ2011 自動航行飛行船コンテスト	準優勝
平成23年10月9日	ETロボコン2011南関東地区大会ゼロヨンチキンレース	優勝
平成23年12月23日	第20回全国専門学校ロボット競技会	団体優勝
平成24年9月30日	ETロボコン2012南 関東地区大会ゼロヨンチキンレース	優勝
平成24年9月30日	ETロボコン2012南関東地区大会競技部門	2位、3位
平成24年10月18日	ESSロボットチャレンジ2012 自動航行飛行船コンテスト	デモンストレ ー ション賞
平成24年12月22日	第21回全国専門学校ロボット競技会	団体優勝
平成25年10月17日	ESSロボットチャレンジ2013 自動航行飛行船コンテスト	コンパリソン部門 1位
平成25年11月13日	ETロボコン2013第6回 FTC杯 ディベロッパー部 門	準優勝
平成25年9月22日	ETロボコン2013南関東地区大会	
	ディベロッパー部 門 競技部門	3位
	ディベロッパー部門 モデル審査部門	GOLD MODEL賞
平成25年12月22日	第22回全国専門学校ロボット競技会	団体優勝
平成27年9月20日	ETロボコン2012南関東地区大会	
	ディベロッパー部門 アドバンストクラス 競技部門	優 勝
平成28年12月22日	第25回全国専門学校ロボット競技会	団体優勝
	平成21年12月23日 平成22年6月6日 平成22年10月28日 平成22年12月23日 平成23年12月23日 平成23年10月9日 平成23年12月23日 平成24年9月30日 平成24年9月30日 平成24年9月30日 平成24年10月18日 平成24年10月17日 平成25年10月17日 平成25年11月13日 平成25年9月22日	平成21年6月13日 近藤科学㈱第3回自律ビーチフラッグ競技会 学生部門 第18回全国専門学校ロボット競技会

勇気をもってあいさつから始めよう! ば

「心が変われば行動が変わる」

「行動が変われば習慣が変わる_

「習慣が変われば人格が変わる

「人格が変われば運命が変わ

あります。

のもり言 井に下あ躍ンこ ア で 氏 掲 智 る の げ茂 星 原 匕 Δ す た ンズ 文 座 $\overline{}$ 監 稜 松 スか 元右 だ ジ い督 高 井 で の銘 た が 言 甲 ٢ -I Q 校 秀 は も 教 (石 喜 子 言 の Δ 心 ٢ 葉 氏 者 わ教 ス 理 も で 袁 Ш の 学な れえ の 出 の 県 てに 言 者 つ 後 身 $\overline{}$ ベ 葉ウた松 の 校大クで活ヤ いあ ン まる チ山

人生を左右 心に響く ときに も 知 n 使 われ する Ą 一大決 るよ 言葉と う 私に 心 を は 感 $\overline{\zeta}$ じ U

> ような気がします。ができることの中で見 や、今日からでも始めることしろ日常のちょっとしたこと 例えばその一つにあい さつが つか る

てしまいます。を無視してしま 声かけ なります 手に と 言 ない 人とす 一で心が 対 会釈 もせ 、その 7 10 ずに 開 清 「お つた ま か ず Q 反対 れた はよ しく () < す n がな う ち 違 に 気 な つ に 会 Ŋ $\overline{}$ う 持 لح 釈 釈 ち に の な相 つ手 相ひ

かがでしょうか

書きま を込 少し いさつは漢字で め 味 も 難し 拶」は す。 てあ です。こ n い話に 「 挨 お に ١J 相 互 応 こちらが つを 手 _ な に は 「挨 に $\overline{}$ Ŋ ょ す 迫 自 < 拶 本いれれ先 る 分 す るばに を 押 _ と が 来も ۲ `心い のの

> い人 で間 関係が生 はよう」には が生ま n る で は な

し て は の て よ _¬ 意 よう 日は 5 の辛 がら で ょ い 「今晩も無事に一口忌味が、「こんばん」 卒業式 かった これ うな けど なら 「こん え 7 が で なたにの時に ね お \cup の ちは 別 れ 由 (「 に し が さ 別 か 5 意 日を よれわ味うるすが うだ に てまあ 6 る は は 意 る ょ の II の \neg `終 ね そ なそはさそえに 今

う 環 始 のか ら進学 道 ま りま 境 に で を 向 心 す。 配 築 か 生の皆 就 職 も 多 く こ 初め つ こ れ $\overline{}$ ٤ < ٢ $\overline{}$ 新 $\frac{1}{2}$ ま の が た 6 でと それ Č 人と な ŧ 生 ۲ る う は 活 ぞ四 か ま違がれ月

> れして は お そ じ はん 続 7+ め てくだ う け ま abla \cup っこ 7 $\overline{}$ そ 勇 ablaとん気 < い だ あにを

るく)、 いがあ を形成 てはい さえ変えてしまう大きな出会 が習慣に (お先に)、 さあ、 やがてあい ら新しい るかも知れません。 ŕ 勇気を出 なり い(いつでも)、 も さつを 生活を始 つ(続ける U 魅力 か U ر د ک す か る あ わ さる人格のようと ð



シニアキャ. リアアド 野 バ 恭 イザ

門

近しし うち、 前回は「機械学習」の た。 なところで話 まったので、 回 専 門 帰につい 的な内容に をしま 今回は少 て 話 を 方法 な --U つ まの 7

ットと活りい皆いッでとト 受 信 の ま ツ を わ が すんれ . を ŧ ボ 案 U 親 と連 ます ツ $\overline{\zeta}$ 側 内 て り لح しよく使 ともに して が 組 1 U ツ 友達と話 る状 絡を取っ よね み合 きた は :: トと いる状態です ۲ か 人間が り、 な ボ 葉 態 つ わ ? 片 んで 7 を チ Ą ツ こ がチャ と送信 、 U す た ット 側 ۲ いヤ を が な る ツ 言 は () チ U 葉 < ۲ **/** が 造 チボ想 ヤッ側部た思は とボ語

がな第

に で

字返はて りたた章 の とり り、 イライ に ŧ り ゃ 信 人 後 発 八間が入力 ました 1966年に たが で な 単 チ U てくれ 会 つ 語 お こ話が たら理 は認 ツ ザ)」が誕生 こな **|** で ま 識 しチボたャッ 成 る わ ₹ 次ブー で り 解 で の ま n 文字 ットトは 立 で ₹ で せ 7 る 単 た ₹ す ん純 な を ボ 発 U 1) な け が かかど、元ッ展って文文にトし 、 Z そ A بے

くをけしえたくジカ ずれ にし ۲ ユ で 7 7 る つ は ね 代 < < たー ように る 表 て な れれ り ル たりと従 とかか い さ れ 在 < を 確 なりまし 外 部 ` " を か 認 る ような で サ トら す は ポ環 来品 で なれ う チャ 境 の の 調 い ば に 、ススピ \vdash ۲ 会 注 ベ こ 答 文てとを答を 連 話 え て携だ ケー て

て

チ

か大きく、近年「深層学習」 文章 話 3 利 < 絥 た を 収 声 をしたいと思います。 これ 用 る でく 激 回 こ 集 め くる技 か 文章 で されていま の 識 σ については次回以 話 技 ら適 単 技 声 す 研 な 術 語 る を か を 究 かでも 切な した 判断 で A 術な 認識 ため 術 5 が 適 「深層 文 進 機械 す 回 تع 外 Ι 切 章 す の 4 6 の 0 が 答 文 が 部 な を る 文 これ で 学習 最を大選 番 ネカ 学 あ の 回 目 の い 発 習 り 情 答 認 解 め か 隆 トほ 展 は限 のま ま 6 \mathcal{O} 報 を 識 す

すを選技る

に ユ で < り にも 問い ちろん も ユー ₹ も ザ ょ ツ 合 A < 応 ザ こ わせる場面 がない。 ア の 導 り 人 に 員 入 を に り t

> 業 つ

側

も ツ

チ

つ

点企レ待 が 業 ス ち 時 ま • 減 間 れ ユりが ま 1 ま少 す ザ すな 側 < こな の 両 の り 方 ょ にうス 利にト

い に A に て し I 話 今回 技 を れ 術 U は て り は まチ しゃ 1) 快 我 ま 適 たッ 々 す な世界 ° ト の 生活 こボのッ よト \wedge を ۲ う を 便 導利に例



専任教師

基

敦

8回は「社内ヘルプデスク」編で 「シリーズ ITお仕事図鑑」第

「プリンタの設定ができない」な ることが主な仕事内容になり ど、いろいろなトラブルに対応す ば「ソフトの使い方がわからない」 とは、会社内から主に技術的な問 の解説です。「社内ヘルプデスク」 でした。今回も「社内」でのお仕事 前回は「社内SE」についてのお話 合わ せに答える仕事です。例

何か、どんな状況なのか、なぜそう $\overline{}$ 能力で一番大切なものは「コミュ社内ヘルプデスクに求められる なったのかなどの情報を引き出 ニケーションカ」です。助けを求め あるからです。 いる人から、困ってい 、そこから解決策を考える必要 ることは

その次に必要な能力は「ト ・ラブ

> いった問い合わせに対して、「急いができないので書類の印刷ができないので書類の印刷ができ です の られます。場合によっては、技術的 る どんなトラブルで助けを求めてくルへの対応力」です。いつ、誰が、 か。同じ部署の方に頼めません をコピーして印刷してはどうです で印刷したいのですね。プリンタ している問題を解決する力も求めな解決策を示すのではなく、発生 ラブルに適切に対応する力が求め を捉えた対応が必要になります。 か?」など、困っていることの本質 ちろん「技術力」の裏づけも必要 設定ができているPCにデータ わかりません。いろい いつ、誰が ろなト

用、「社内ヘルプデスク」はトラブ SE」は社内システムの開発や運 い規模の会社 では「社 内

> ります。 Р 「社内ヘルプデスク」として採用さ など、ITに関わるいろいろな仕 れてもトラブル対応だけでなく、 プデスク」も明確に線引きされて 会社では「社内SE」も「社内ヘル ケースもありますが、中小規模のル対応と、仕事が分担されている Cの設定やネットワー ないことがあります。つまり、 - クの敷設

味 方 ある方にはこの仕事が向いている 「社内ヘルプデスク」のやりがい もしれません。 わえる、魅力的な職業といえま 々から感謝されながら達成感を て感謝されることです。社員の 「社内ヘルプデスク」のやりが 。コミュニケーションに自 信が

筆者

専任教師 青木



ティ ルユ に Τポ ユ 由来しています。 o t、または「ニューエルティ eapotと呼ばれアメリカ ツ ーポット」Ut е N e W a h W е е а

> に、ティ コンピュ めの デリングしました。そのモデルデ して ニューエルはその実験データと共 図を元にベジェ曲線モデルという プ、スプーンなどを方眼紙に鉛筆 に用いることを思いつきました。 いうCGを画像として表現するた 技術を使用してティーセットをモ でスケッチをして、研究室でその 究のために何か身近な物体を使用 ータも公開しました。 はティ タを基に、レンダリング技術と ようと考えた時に、自宅で使用 技術の実験を行ったのです いたティーセットをサンプル ーセットのモデリングデ タグラフィックスの ポットやティ カ ツ

中でもティ ン グ の 状 を用いて、様々な研究をするようその中からティーポットのモデル 、CGの国際会議のロゴに採 形状をしていたので、レンダリ たのです。その後、ティーポット なったのです。 すると他の多くのCG研究者が 実証実験にはとても適して 象徴的 ーポットは適度に複雑 なアイコンと ティ セット 用 な の

> マン」Rende ティとして配っていました。 議などで、ティ フトウェアのアイコンにも ます。ピクサー たゼンマイの d e ィーポットに脚を付り一はCGの国際会 おも 社 M a ちゃ の「レ をノベ とうソ なって ンダ

ーポットが存在してハミティブオブジェクト た。そしてその歴史への敬意とし的な物体として広まっていきまし 割から始まり、CGの一つの象徴トはCGの技術開発においての役 て、現在も3DCGソフトのプリ このようにしてユタティ ユタティ ポットが存在 ポッ してい トの元になった の るの 中にティ で す ポ

物館に展示されているそうです。 フォルニアのコンピュータ歴史博 実物のティーポットは、現在カリ

7

いるのをご存知ですか。あのお 中になぜかティーポットが入っ

を

注ぐティー

ポッ

トです。3

s M a

×」にも「MAYA」

の

代表的なソフトウェア

が

ら制作をします。

こ

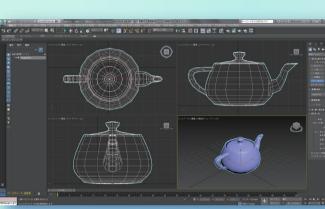
のプリミティブオブジェクト

ら徐々に複雑な形に変形をさせな

頭部は球体から、体は立方体

えば人体をモデリングするとき などの基本的な立体のことで、

筆者 専任教師 馬 場 健



ク

とは

立

方体や、球体、円柱、円

形態を呼び出すところからスター

します。プリミティブオブジェ

デリングの

の

を

行う作業はモデリングという、 3 D C G を制作する時に、最初

なぜティ

ポット

?

ブオブジェ

クト」と呼ばれてい 手始めは「プリミティ る作業になります。

る

夕大学のマーティン・ニューエ タ大学の名前と、研究者の名前 このティ ポットは通称「ユタ 1975年に

ティーポットが入っています。 にもプリミティブオブジェクトに

なぜ立方体や円柱に混じってテ

'n

にはCGの技術開発の歴史が

があるのでしょうか。

美術陶芸部

を な

自

由

に

創

L

7

ま

いな

たの

に活動してい

ま 日 は

好 課

を 体

7

いま

今

年 品

作

7

ま の

が 術 年

Z 品 を

を

だ制

け

の ス

ジ

ルで

動

物 す 法 り

で

٤

締

切

IJ ケ い

を

守 ユ す

لح

曜日

لح

金 曜

放

な を

ど 決 展

様 め 示

Þ

な

技 切

で

作 p テ

7

美術陶芸部

週

2

マ祭

7 で

絵

Z

の

よう

に

の

毎

年

を守る

Þ

な技法で制

絵や、

立 体

陶 す の

芸

ど き 後

神奈川県立有馬高等学校

では ます

としまた や 高 齢 者 夏 地 の 方 休 域 をみとかにの /]\ 関 象 デ に ジ リ 生

することができま クラブ」と協力を 活動をし ングを行 の の方々と Ξ IJ め 生 に、 徒 - クラブ テ ゃ 7 月 は、 1 つ タ 大 交流 7 い て、 ン に IJ 学 グ ま 深 な な 授 7 し 交 ブ す な に 丰 手 町 経 業を 現地 て、 流会 広 分 8 協 伝 ボ の 他 活 ヤ ま 内 の 験 ラ い サ に 力 ン つ い 会 視 を 世 ン 受 の 台 留 لح ポ を \mathcal{O} ŧ

社

. 会 人

他

野を広げ

し とが 礼 7 職 できます。 儀、 つ 自 業 で で 分 の きるこ の 視 方 代 マナ لح の 1 野 方 ア 域 ま \mathcal{O} とが を広 交 や 活 を 学 貢 流 動 げる ぶ 魅 挨 を 様は カ 诵 こ 拶 Þ

に

室 をする 厚 で 夏 ン た 祭 市 な の ポ Ŋ で タ IJ لح تح 募 で IJ IJ 共 7 新 金 才 あ 屋 催 つぎ 活 撲 台 世 ク い 様 L 動滅 の Þ

度 す 様

タ

ティ

こ の

Þ

な

そ

の

た

すごいで仲間たち

高校部活紹

様々な活動を通し

J۱

ソ

 \Box

る

ゃ

場

見 画

学

に活 体 活

幅 を I

を 企

広

げし

لح 動

考 の

え

7

る

そ 7 7

験

など

ランテ

「 厚 木

つける · 高 校 湾 学 う \wedge 生 など 生と 研 لح 催 の 修 L の _ に 交 に 緒 行 流 参 貴 を に 重 つ

献

L 7 い 加代ラ い さ きたい 5 場

わり とも の こ

全員 を 出 つり 7 で L は 同 合 各 の 塗 で る つ 部 ま 7 員 な す ス が タ 作 色 ア Z てつ を イ の の いの 部 デ ポ制民夏 入 示 が

す 品

る ٤ ポ ス 夏 タ 休ーみの に制 か 作 け が 7 終 わ

品制作に入ります。文 秋に行われる文化祭の作

仲

7 います。 学 に 文 化 の 校美術展 行 わ 祭 れが

る 終

神

Ш

県

わ

る

Ł,

に

出 奈

品

す

る

す

ŧ

挑戦

L

7

4 黒

い

と の

こ に

とでした

ア ス 作 ま

タ

を

行

わ

れ

る

え

び 7

な は

市

体 感

が す

生

ま

れ لح

7 に

い

る IJ

う ー

力

を

るこ

ょ h る

大変なので

4

なで Z

協 が す れ

です

今

後

は

板 た

ア

主

活

لح

Ĺ

ほ ど 部 を 訪 展 魅 を 見 れ 示 力 会 決 7 Z め 場 的 なた 美 のに 展 部 術 文は 示 員 陶 化 多 芸 に が 祭 < 部 のの ない 高 12 に っる 展 人



写真部

特大ジオラマを制作

神奈川県立磯子工業高等学校 鉄道研究部



昨年の夏は長野県へ行き、 鉄

ラマの制作が年間を通して マを所有していることで を誇るNゲージ鉄道ジオラ 部の活動は平日の放課 そのジオ レイアウト かでも を行って 充実し どのデモンスト 来 校 ジ 鉄 た。 っぷを使用する せてもらったり、青春18き オラマ そし 道研究部 なの鉄道の車庫を見学さ 道の写真を撮影 of railway track 者 て が た活動を行いまし U 車 を 秋 ます。 一両を走り 教室に 自 の 慢 文 などして、 の 化 らせ 展示 N ゲ 祭で ・ション た

る Ĺ

な

ージ

は、

おもな活動です。

後に行っていて、

The other side

部誌 を 発行 7 情 報 発 信

員 る鉄道の研究成果が掲載さ 部誌を発行 てい 道好きが集まり、 のそれぞれ ほ 乗り鉄、 か ます。 に は、 して 部に の 年に おり、 切り口 は、 1 お 互 撮 に 2

音鉄と様々な 各部 IJ ょ

眼 操 レ 作 フ に カ ŧ X

撮 を 影 + そ 分 を の L に ょ 発 う 7 い揮 な まし 中 7

た写真を撮影し、 化祭で 活動 文 各自でテ な の へ化祭で を実施して 来校者による コメ の 発表し に 励 ン ŧ 展示 み 夏 休 に eg7 を L L 9 に い ア た ン 作 , 月 の 沿 4 7 ŧ 7 い いら ま っに

は

校 行

事の

運 動

体育祭、

文化祭などの

主

な活動は、

入

学

式

は

毎週月曜日の

放課

す 7

そ

成

されてい

7

週

自 ŧ

由

に 性

に活動しています。

学校行事を撮影

写真部は、

現 在

13

名

で

個

の

動

写真も 撮影や、

影

L

7 部 学

つ

7

い

る

4 そ

h 、 の 時

な

の Þ 撮

り

取ることがで

きる 笑顔 の頑張

の を

Þ

写真部の特権です。

い

ま 部

す 活

な 撮影にも挑戦 活 動 以 外 に

江

島 た 6

鎌 倉 エ

リア

月

لح

月には

ま い 様 ケ 品 す 文

す

``

、日帰り

· 撮 影

旅

行

に ゃ

マ

ニュアル

期

的

行 横

7 \land の ま

動 物 あうことも つになって を れ んで撮影を 見せ合 したり、 撮影し 自然 ぞれの など自由に被写体を 各部員は、 の 術 日頃 た 写 い 風 個性に合 C お 互 感想 景 ます。 して 日頃から 真 を の ゃ 有 活 を い 景 。 の 写 色、 動 述 プい わ リま た の ベ せ

選

そ ŧ

神奈川県立霧が丘高等学校

に1

を 決

そ を

テ

てマ

影旅行

で

は

毎

テ

真

沿 eg撮

つ

た

写真 め、

撮 の

影

L

影

技

ŧ

の

か

活動をしています。 に鉄道という共通 ら、とても仲良く楽しい部 話題

校の鉄道研究部のな 自慢の鉄道ジオ 鉄道研究部の自慢は、 Ē

最大級サイズのレ

す。また、夏には、2泊3 日の合宿も実施していて、 道の撮影会を行っていま りで関東近県に赴いて、 その他には、 春先に日帰

でい れ ま す が

ニュアル います。

ラ 挑 戦 の L マ

仲

神奈川県立平塚工科高等学校 社会部

「フリーキックのルール」

サッカーのルールを知って楽しもう!

サッカー日本代表は、2019年6月7日(金)からIFA女子ワールドカップフランス2019、 6月14日(金)からCONMFBOI コパ・アメリカ ブラジル2019、更には9月からFIFAワール ドカップ2022アジア2次予選が始まり、まだまだ、目が離せない状況です。



試合中に流れを変える要素の1つとして「フリーキック」があります。その名の通り「相手からじゃまされず に自由な状態でボールを蹴ることができる」というルールです。今回は、そのフリーキックについて解説し たいと思います。

【フリーキック】

試合中にファウルや不正行為が行われた時、反則を受けた側が反則を受けた地点から相手の妨害を受 けない形でキックすることで試合を再開するルール(ボールを蹴る選手はメンバーならば誰でもOK)で す。

フリーキックには「直接フリーキック」と「間接フリーキック」の2種類があります。

【直接フリーキック】

相手を蹴る、つまずかせる、飛び掛る、チャージする、殴る、押す、抑える、つばを吐きかける、ハンドなどが 反則になります。

- ・反則を受けた側は、直接ゴールを狙うことができます。
- ・コーナーキックやゴールキックも直接フリーキックです。

【間接フリーキック】

主にゴールキーパーの不正行為に対して、相手チームに与えられるものです。

- ・ゴールキーパーがボールを手から離すまでに7秒以上かかる
- ・ボールを手から離して相手プレイヤーが触れる前に再び手で触れる
- ・バックパスを手で触れる(バックパスとは、味方プレイヤーがキーパーにボールをパスすること)
- ・味方プレイヤーのスローインを直接手で触れる。

他にも、ボールとは無関係に相手の進行を妨げる、相手ゴールキーパーの邪魔をするなどが間接フリー キックとなります。反則を受けた側は、2人以上の選手がボールに触れないとゴールを狙えません。

フリーキックを得たチームは有利となりますが、フリーキックを取られたチームは不利な状況に陥りま す。フリーキックが試合の流れを左右すると言っても過言ではありません。

審判がファールを取り、フリーキックと判断した際に、受けた選手も取られた選手も審判に詰め寄るシー ンがよくあります。それは、フリーキックが試合の行方を左右することをよく知っているからなのです。とて もハラハラしてしまいます。現在は公平な審判をするため「VAR(ビデオ・アシスタント・レフェリー)」や 「GLT(ゴールライン・テクノロジー」などの技術が採用され、より審判の精度が上がってきています。

筆者: 専任教師 富永英世

とで サ F 主 催 ス す + ッ の ッソ れ は を ラ

で 行 年 わ 夏 れ に る ک ل め、 系 製作 を を 体 活 の 5 を の を 体 て活 X う れ 生 か ŧ 合 れ に

全

オ

IJ

ジナ

して

とが

課

題

に

い 現

ので、 在 も魅力

入 部 生

を

p

主な活動は

て、 ンに 動 7 ぞ が 様 な れ 集 ま ŧ ま あ の得意な分 、なア そ つ 気 7 改良が 過去の れ 系 一科高 自動 い

る な

亡名乗

社

後

発

の

た

スに

在

とて \angle

的で

す

の

部

ワ

クが

生まれ

るこ

仲 間

کے

の

う非日常 ることと、

の 動

世 は、

用 用

を体

: 験 で チ

の

部 活

ス

クラ ス 優 勝と総 を 収 初

ク アで る S 5

ぶ

つ同 か







yse





YOKOHAMA SYSTEM ENGINEERING-COLLEGE-

■ IT・ゲームソフト科 ■ ロボット・IoT ソフト科 ■ AI サービス活用料

■ グローバル IT ビジネス科 IT ライセンス科 (通信制)

〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 〈TEL〉045-367-1881 〈E-mail〉info@yse-c.net 〈URL〉http://www.yse.ac.jp